



## 「居場所」

昨日、今日と球技大会が行われました。

当たり前風景なのですが、この3年間は新型コロナの影響で中止や延期に。生徒が企画し、予定通りに行われ、そして、生徒の歓声が聞こえてくる球技大会。何気ない学校生活の一コマが戻ってきてよかった、と感じる今日この頃です。

かつて、北部中学校の球技大会といえば、やたら熱を帯びていました。

「朝練して頑張るぞ」と気合いを入れ、それこそ早朝6時から練習に励む生徒も。で、そういったクラスは、試合になる時間には疲れてしまい、大方初戦敗退。12月の球技大会は男子の定番がサッカー。持ってくる物は、下着を含め着替え全部。雨が降ろうが、グラウンドに水たまりがあろうがお構いなしに試合開始。寒いからテントを立てて、その中でたき火。まあ、今思えば滅茶苦茶な時代でした。

そもそも、なぜあんなに熱くなっていたのだろうか？

令和の時代と明らかに違うこと、それは、ネット上の付き合いがないこと。

リアルな付き合いしかないから、生身の人間が競い合ったり、仲間を応援したりすることに熱くなっていたのかも知れない。（当然、引き気味の生徒もいたと思うが・・・）

いや、今の生徒達も熱い。今日の1年女子を応援する男子の姿は、かなり盛り上がっていた。やっぱり、仲間を熱く応援する姿は、時代が流れても変わらないですね。

とはいえ、今はネットの世界に浸かりすぎ、ネット依存になっている生徒がいないか心配。

昨日、我が家に届いた教育雑誌にこんな記事が。〔児童精神科医 関正樹 氏〕

SNSへの依存度が高い子供達は、ストレス解消、現実逃避など、必ずしもポジティブではない理由からSNSを利用している。オンラインゲームへの依存に関しても、孤独感や自己評価の低さ、幸福度の低さなどがリスク因子になる。誰もがやり過ぎたら依存になるわけではない。

依存になる子供達はネットの世界に「居場所」を見出している。その子の現実の中で「居場所」を失っていないか検討することが大切になる。

「ハマる」子供の背景に目を向けずに、その時間だけをコントロールしようとする大人は、子供から見れば「居場所を取り上げようとする」大人となる。

自分の現実での苦しさに目を向けてくれ、安心して相談することができ、ありのままの自分を認めてくれる場所は子供達の「居場所」となる。

GIGA スクール構想の視点からも、今後、生徒がネットを利活用していくことは必要不可欠。大切なのは、ネットの負の側面を正しく恐れ、適切に活用する力を身に付けること。そして、現実の世界の中で、ありのままの自分を認めてくれる「居場所」があること。

「居場所」は、大人にとっても大事だと思います。

職場以外にも、複数の「居場所」があれば豊かな人生を送ることができる気がします。

北部中学校が生徒にとって大切な「居場所」の一つ（今回の球技大会も）となるよう努力していくとともに、自分自身の「居場所」も大切にしていきたいと思います。